

## 令和6年度 第1回白馬村総合教育会議 議事録

日 時 令和6年12月4日(水)  
開会 午後 1時25分 閉会 午後 3時01分

会 場 白馬村役場2階 村長室

出席者 白 馬 村 長 丸山 俊郎  
白馬村教育委員会  
教 育 長 横川 秀明  
職務代理 幅下 守  
委 員 松沢 亨  
委 員 武田 弥生  
委 員 服部 知子  
(説明等のために出席した職員)  
総務課長 田中 克俊  
(事務局)  
教育次長 横川 辰彦  
生涯学習スポーツ課長 松澤 宏和  
子育て支援課長 内山 明子  
教育係長 今井 志保

### 議事の概要

#### 1 開 会

[教育次長]

開会を宣言した。

#### 2 あいさつ

[村長]

全国市町村長会でも、多様化している児童生徒のニーズや個性について話題になる。白馬村でも徐々にそれが顕著になっており、改めて1人1人の個性に寄り添った教育の重要性を感じている。子ども第三の居場所が白馬村でも開設される。今後、さらに個性を大切にしたい教育に力を入れなければならない。それを進めるには、教育委員のご尽力なくてはできず、引き続き協力をお願いしたい。行政も来年度の予算編成に入っており、今回また六つの基本方針の柱を掲げた。昨年同様、子育て支援、少子化対策を重要項目としている。本日の意見交換を、少しでも予算に反映できるように努力していきたい。

#### 3 協議事項(議長 丸山村長)

(1) 令和7年度教育関係予算について

・教育次長が、資料に沿って令和7年度予算要求における重点施策と懸案事項について、

## 教育課所管部分の説明をした。

[村長]

スクールバスは、来年度から通年の計画をしてきた。どういった形が一番良いか意見を伺いたい。給食費の負担軽減は、来年度少しでも行いたいと思っているので、その辺も意見を伺いたい。

[委員]

スクールバスの代わりに家庭が送り迎えする負担軽減を図って、遠距離通学の補助を出していると聞いた。スクールバスを導入し始めたが、他市町村を見ると自然な流れだと思う。どうせやるなら実施時期は、通年の方が子どもにとって良いと思う。

3.5キロ以上を遠距離の補助対象としているが、小学1年生は、3キロ弱の距離でも通学に約1時間かかっている。その様子を見たとき、3.5キロは子どもにとって酷である。松川村は1年生が2.5キロ以上、3年生以上は3キロと聞いた。距離についても少し検討してほしい。

[教育長]

保護者から季節運行のアンケートを取った。北小学校の保護者は、ほとんどが通年運行希望。南小の保護者は、今まで歩いていたので、歩かせたいという要望が北小に比べて多い。めいてつ地区の保護者は、どちらかという通年運行を希望している。神城の3キロ以上の方の中には、歩かせるのもいいという意見もあった。教育委員会としては、北小だけ通年運行とか、南小だけ季節運行ということはできない。やはりきちんとした距離の規定のもとで、通年運行にするならば、一斉にやらなければならないと考えている。歩かせたいという保護者の考えもあり、強制して乗せることはできない。

[教育次長]

今も強制ではない。習い事などで乗らない子もいる。

[委員]

自分は、どちらかという歩かせたい方である。1年生は何キロ、3年生は何キロと幅を持たせるのは良い。スポーツをやっていると、雪が降って外で運動できない時期が長くても、南の選手と比べて、体力でさほど差がない。6年間、歩いて通学して基礎体力がついたからだと思う。例えば、スポーツテストで体力が落ちたから、そのための授業を増やすより、もちろん危険を回避してだが、6年間歩いて普段の生活の中で体力をつけることが重要。

[委員]

歩かせたいという家庭もあるし、帰りは習い事があって乗らないというパターンもある中で、ある程度の人数を把握して、必要に応じてバスを小型化すれば、もう少し予算を抑えられるのでは。

[村長]

大型から中型に変えても運転手確保の面では変わらないので、あまり安くならないとも思うが、確かにここは工夫のしどころである。ただし乗れない人が出ると問題。でも無駄のないよう走らせた。特に下校時はかなりニーズが分かれて来るので、そこは検討したい。

[教育次長]

教育課としては通年予算で要求する。学校現場は、春先は歩いて危険箇所の確認をさせることも必要だという意見も出ているので、もう少し学校現場と保護者の意見の精査が必要。

[委員]

給食費は、予算が足りなくなった場合に半分補助するのか？

[教育次長]

白馬村の給食は公会計になっているので、給食費を集めて一般会計に入れ、支出も一般会計からしている。現在、給食費の収入より、支払う賄い材料費の方が多い。給食費で賄えない部分については公費で精算している。私費会計であれば、途中、足りなくなったらもう少し徴収するか、献立を工夫して安いものを使って年度内で調整するのだが、白馬村は公会計なので、支出予算の範囲で処理している。今も給食費の補助はしていないが、実際 1,000 万円ぐらいは村が持ち出して、令和5年度賄い材料の決算を打っている。

[委員]

業者側してみると、白馬村はお金のかかるやり方をしている。入札は止めて業者会みたいなのを開いて、村と業者と一体でやっていく必要があるのではないか。長野市の業者とかも入れつつ、教育課ではなく専門の課を作ってはどうか。給食センターに出す分は赤字になると、業者が手を上げなくなる。時期的に、安い時期と高い時期がある中で、普通にメニューから決めるのは止めた方が良い。

[教育次長]

白馬の給食センターは、規模が中途半端。もう少し大きければ、長野や松本からも喜んで運んでもらえる。そうすれば安く済む。小谷はもっと大変なので、将来的には白馬と小谷と組んで量を確保するのも必要かもしれない。

[教育長]

安全安心、地産地消など、オーガニックも含めて、子どもたちに伝えたい食育の食材は、確かに高い気がする。地元の業者と話し合うことは今後必要だと思う。

[総務課長]

昔は私会計であり入札を行わなかったので、希望業者から取れた。集金も学校の先生がやっていたので、負担は大きかった。やはり入札は、適正な価格で安いところから取れるところもある。

[委員]

給食費の補助について前回の議会で不採択になったという経緯がある。村長からは、ぜひやりたいという強い意向を聞いていたが、ただ議会とは、あまり争わないということも聞いており、今回改めて予算委要求するというのは、村長の強い思い入れか。

[村長]

前々回は全額補助で不採択。可能な範囲だったら議会も採択になったと思う。財政的な面から全額は無理。半額も去年の状況では無理。議会はどうしても財政状況を見る中で、イエスカノーで答えなければならない。負担軽減に関して反対している人はいない。ただ、今の状況で過度な財政負担をかけてまではやらないという感じである。負担軽減もわかるが、もっと他にやることのあるのではということも言われた。

[委員]

今年改めて上げたのは、村長の優先順位的には上か。

[村長]

近隣市町村との差があり、はくばっこ応援交付金も今まではゼロだったので額としては未だ低い。全く無いよりは、少しでも制度としてあった方がいいと取り入れた。はくばっこ交付金を上げる選択肢もあるが、給食費の負担軽減に関して、ここ数年変えていないので、少しでも上げたい。

[委員]

大町市は、国がやるべきことと強く言っているようだが、どのように考えているか。

[村長]

国がやるのが一番良いと思う。自治体同士が子育て世帯の取り合いになり、こういう補助があるから、こっちに来いでは、全体として見た場合、意味のない政策になる。将来的には、国でやる方向になると思う。首長会でそういう話しになる。ただいつになるかわからない。

[委員]

国との関係もあるが、近隣市町村との差は保護者にとって重要である。可能な限り、他市町村と足並みを揃える形にしてほしい。

[村長]

住宅政策も近隣と比較をされることが多い。やっている姿勢を見せる必要がある。

[委員]

エアコンも校長室は付ける必要ないと思うが、やはり来客が多いし、今の南小は子どもの遊び場になっており、不登校児童の居場所になっているので、ぜひお願いしたい。

・子育て支援課長が、資料に沿って令和7年度予算要求における重点施策と懸案事項について、子育て支援課所管部分の説明をした。

[委員]

保育園は、事務室も数人しかおらず、みんな出払っているような状況。安全に関しては、可能な限り考慮してほしい。

[委員]

自動ドアは普通に中からも外からも開くのか。

[子育て支援課長]

中から外には開くが、外から中へは入れない。南小のようにインターホンを押したら誰かが解除して入場し、数秒後には自動で閉まる。または、モニターを見て保護者が確認してドアを開けるなど色々検討している。

[委員]

園児は使わないのか。

[子育て支援課長]

園児はほとんど利用していない箇所。園児は、ほぼテラスから出入りしている。そこには必ず保育士が居るので問題ない。

[委員]

学校は校務支援システムが導入されて、だいぶ勤務の効率化を図るようになっている。可能なら保育園もお願いしたい。これは国県支出金が出るのか。

[総務課長]

補助率9割なんて交付金があるのか。確認するように。実際こういうシステムを使っている保育園

は、入園した、退園したなど写真も毎日送られてくる。保育士の負担にならなければ良いが。

[子育て支援課長]

サンライズキッズも子どもの様子を知らせる方針で、確かに写真を撮るのは大変そうだが、特に未満児は、自分で今日何をしたかなと言えないので保護者としては安心な面がある。不適切な保育に繋がらないというメリットがあるとも聞いている。白馬のサンライズ保育園は保護者にとっても人気がある。誘致した者としては、とてもありがたいが、安全面や、いろいろな情報提供、英語のカリキュラムが入っている等も白馬の保護者には合っているようだ。

[教育長]

近隣の各市町村とも保育士が不足している。大北地区、全部の市町村が足りない。給与体系で近隣に差をつけることは厳しい。保育士にとって魅力ある職場作りをお願いしたい。待遇改善は、将来的に全市町村で考えてほしい。

[委員]

LED 化をリースにした思惑は。

[総務課長]

メリッ的には分割払いができること。当然利息分はあるが、毎年の予算で払っていける。最近だと役場の庁舎の LED 化もエアコンもリース。

[委員]

何年間か。

[子育て支援課長]

LED は7年。安定器や設置工事が業者負担で、ふれあいセンターも LED 化した。

[教育次長]

学校でもやっており、7年の間に利息分があるが、電気料の減額分で相殺される。7年経ったら再リースではなく買い取りなので割賦である。長い目で見ると、8年後から丸々電気料が浮くというのが業者の主張。

[子育て支援課長]

ホールなど天井が高い部屋は、高所作業車を入れないと LED 化できないので、普段使う部屋のみ。

[委員]

リースだと後年度負担もあるが、単年度で考えたら経費を抑えられるということか。

[村長]

民間でもリースは多く、布団のリースもある。購入して資産として減価償却という方法もあるが、特に機器類は新しいものがすぐ出て来るので、リースが終わったら、また別のものに変えてリースできるので、良いという考えもある。

[委員]

サンライズが人気という話しであったが、しろうま保育園も昔からの先生が居るなど、良い点はいくつもある。

[子育て支援課長]

民間会社の方針で、北海道のサンライズも広島のサンライズも白馬もみんな同じことをやっている。今日は花を植えると言ったら、全国みんな花を植えている。チェーン店の良さがあるようだ。しろうまは、天気の良い日は散歩に出たり、もちろんしろうまの良い点はいくつもある。保護者が説明会で話しを聞きながら、自分の子育ての感覚に合うところを選んでいる。

**・生涯学習スポーツ課長が、資料に沿って令和7年度予算要求における重点施策と懸案事項について、生涯学習スポーツ課所管事項の説明をした。**

[村長]

氷河は、今年白馬沢が動いていると言われ、論文を出して受理されれば終わりではないのか。

[生涯学習スポーツ課長]

白馬沢が氷河であるとの決定は来年度になる。杓子沢と唐松沢は論文を発表して、今年度中には決定する。

[村長]

白馬沢の論文を提出するために予算が必要なのか。

[生涯学習スポーツ課長]

ほかの氷河も合わせた追跡調査費用。新潟大学への委託で、決定した後の継続調査費用である。

[村長]

議会からもいつまでやるか聞かれ、氷河と決定されるまではやると答えている。学術的には価値

があるだろうが、継続調査をしないと価値の喪失になるのか。

[生涯学習スポーツ課長]

いったん決定を受けたら終わりという考えも当然ある。他の市町村にはない氷河を、多少の財政負担をしてでも子どもたちの学習も含めて続けるべきか意見を伺いたい。

[委員]

継続調査の中身を明確にしたほうがよい。

[生涯学習スポーツ課長]

氷の厚さの計測や、セスナを使った調査である。

[村長]

毎年必要なのか。5年に一度でも良いのでは。

[委員]

山梨の氷穴だったらみんな見に行けて観光地になるが、これは全く違う。

[村長]

氷河の存在が素晴らしく、下から見られる価値が観光資源。

[委員]

氷河の定義は、流動か。

[教育長]

教育委員会としては氷河を学校教育に繋げたい。村としては観光に繋げたい。できたら子どもたちに氷河の意味や、これから温暖化の中で守らなければならないものを、学校教育の中で伝えていきたい。本当は山登りと繋げたい。残念ながら今年、白馬中学は宿泊登山を止めた。大きな理由は、医療面で万が一、何かあったときに対応できないこと。白馬岳は上に診療所があったので安心だった。唐松も、当初は安曇病院の医師が引率してくれたので、大町市内の中学も白馬中学も実施できた。その医者がいなくなったら引率の医師がおらず、先生方はそれが不安。多様な生徒が出てきて、登れない生徒もたくさん出てきたため、本年度は日帰り登山をした。山案内人組合を始めOBから、こんな素晴らしい景観の白馬に居ながら、中学生を登らせないのはいかがなものかかなりの苦情が来た。事情は丁寧には説明してきたが、村民の中には、ぜひ子どもたちには、山に登ってほしいという希望が多い。学校現場とのすり合わせが非常に難しい。ドクターヘリも夜は飛ばせないし、看護師だけでは処置できないことも必ず出てくる。登れない分、こういう氷河教育を行え

ればと思う。

[村長]

毎年、氷河の流動を確認しないと氷河と言いつけられないのか。3年に一度とか5年に一度動いている状況がわかればいいのか。予算要求の段階で精査してほしい。

[生涯学習スポーツ課長]

図書館修繕は、先日行った中学生議会の中でも、図書館で勉強するのに、今の所では狭いしテーブルもあまりない。良い環境ではないという質問が出た。それに対する回答は、図書館も先送りになっており、現状ある図書館の中で、できるだけ環境を整えていくという回答しかできなかった。新しい図書館ができるまで数年かかるので、学習の場の確保も考え、一部壁を抜いて少し広くし、今の環境を良くするために要求した。

[委員]

何人くらいの子どもが困っていて、予算を要求したのか。

[村長]

どれくらいの子どもが学習室を望んでいるのか。どれだけのニーズがあるか。

[委員]

もちろん声はあると思うが、図書館も新しくするまでの繋ぎの最低限の修繕なのか。

[村長]

この要求で修繕全部が終わるのか、ニーズに応えられるものが全部できるか判断する必要がある。本当に1回だけで終わるなら、それは高くないかもしれない。複数回あるのだったら高い。

[生涯学習スポーツ課長]

1回きり。令和7年度予算につけ、8年、9年と続くものではない。

[委員]

図書館で勉強したいという意見を聞いたことがないので、そのニーズがどれくらいあるか疑問。逆に、B&Gには網戸が無く、ウイングの窓は十分に開かないのでとても暑い。施設予約をオンラインにしてほしいというスポーツをやっている人たちの声も聞いてほしい。

[村長]

需要がどれだけあるか精査する必要は理事者側としても感じる。一部かもしれないが、例えば図

書館複合施設の説明会に来た人たちに、今の図書館を整備していくとか、中学生議会でも、今あるものを使って使いやすい環境にしていきたいと答弁した。実際に何が必要かは精査してほしい。

[委員]

こういうことに対応して欲しいという要望はどこに言えば良いのか。

[村長]

いろいろ方法はある。団体が、村長に直接要望書を持ってくるパターンもあるし、担当課に行つて要望を伝えることもある。議員を通して、議会の場で上げることもある。意見を集約してきていただけると、我々としてもありがたい。個々の意見で同じ人ばかりだと、それが本当に全体の声なのかわからない。たくさんの意見を集めてきてもらえるとありがたい。

[委員]

改修工事の起債は、ほとんど交付税で補てんされる起債か。

[総務課長]

起債の種類によって違う。ウイングは指定避難所になっているので、防災に関係する起債ができ、それについては交付税措置率が非常に高くなっている。緊急防災・減災事業債なので7~8割の交付税措置がある。

(2)その他

・教育次長が小中学校で給食後にヒスタミン食中毒が発生したと経過を報告した。

・その他

[委員]

11月の新聞で、昨年度は全国的に不登校児童生徒が一番多くなった。学校からも毎月報告が上がるが、非常にいろいろなケースがある。外国籍保護者の家庭で、なかなか子育てがうまくいっていない場合もある。小学校で不登校だった子が、中学校でも不登校という子も数人いる。教育委員会としても、支援学級を設けたり、あるいは家庭指導員が入って様々な支援をしているが、その支援のあり方をもう少し考えてほしい。白馬村は全く引きこもる子がいないのでまだ良いが、全く引きこもるような子が出たとき、その子の居場所、その後の社会的自立を促す場が必要だと思う。学校でそういう場が見い出せないとき、学校外でそういう場所が必要だと思う。他の市町村で、学校外に中間教室を設けたり、白馬村は、第3の居場所もその一つになるのでありがたいが、行政も一緒に考えてほしい。本当の不登校が出た場合は、昼間でも、どこかに居場所を考える必要があり、行政に支援いただけたらありがたい。

[教育長]

中学はしろま婦人会の寄附で、美術準備室に仕切りを設けて、スペシャルサポートルームを作り、不登校や教室入れない生徒に対応している。南小も特別支援教室を工夫して、職員もつけて不登校児童に対応している。残念ながら北小はそういう場所がない。白馬村も全国と一緒に、不登校児童生徒は増えている。個別最適な学び、それぞれの多様な子どもに対する教育の場を考えなければならぬ時代だということは間違いない。全村で子どもたちを支援していただければありがたい。

[村長]

全国町村会長会でも不登校の話は出ており、行政としても早め早めに対応していきたい。

[委員]

高校生の父兄から白馬から通うのに交通費を補助してもらえないかと相談を受けた。署名活動をしたとも言われた。実際遠くて通いきれず、引っ越す人もいる。小川村はバス代の半額を補助していると聞いた。高校生は義務教育が終わっているのが難しいとは思うが。

[村長]

村が自主的に通学用バスを出すのは、白馬高校の存続もあって矛盾してしまう。意見として伺う。

[教育長]

授業料は、国公立と私立とあまり変わらなくなった。私学へ通っている保護者から、文具代とか部活のお金、通学費のような隠れ教育費の保護者負担が増えているので、支援してほしいという要望が来ている。特に通学の支援については、市町村でやっているところもあり、いろいろ聞きながら、できることがあれば支援していきたいが、白馬高校の存続に対して、白馬小谷でかなり支援している。外へ行く子どもたちに補助することは、なかなか難しい。

[村長]

白馬高校を村外の学校以上に魅力があって、みんなが行きたくなる学校にするのが先とも思う。進学だったら、公営塾もかなり良い大学に入る子が出ているので、そちらを充実させるのも一歩である。

#### 4 閉会

[教育次長]

閉会を宣言した。